

介護老人保健施設

老健ホームいしかわ

きらめき



入所者様の作品

伊藤博文が畏れた金沢の偉人：北条時敬（1858 - 1929）

同郷出身や学校の同窓生は、時間が経っても親しみを感じるものである。私事で恐縮だが、私は山口県出身で、広島 - 京都 - 徳島 - 金沢へと勉学や仕事の都合で移り住んできた。私のなじみの土地に足跡を残した偉人をご紹介したい。金沢の偉人といえば西田幾多郎が有名だが、北条時敬は明治18年東京大学を卒業し、石川県専門学校教諭、21年第四高等中学校教諭となり、この時の教え子に西田幾多郎と鈴木大拙がいる。明治29年には金沢から移って山口高等学校校長、31年第四高等学校長、35年広島高等師範学校長、大正2年東北帝国大学総長、6年学習院長となった。私が卒業した広島大学は広島高等師範学校が源流で、その同窓会「尚志会」は北条が命名した。尚志会は日本の学校教育界における西の総本山といわれ、東のそれは東京高等師範学校（現筑波大学）である。山口出身の初代総理大臣伊藤博文は若い頃から花柳街の遊興で知られていたが、明治31年に第四高等学校での訓示で金沢に来る前日に「ある手紙」を受け取った。数日後に東京に戻った伊藤は「金沢の高等学校長の北条という男は畏ろしい男だ。我輩が先日金沢に入ろうとした時、第四高等学校長の肩書付で親展書が来た。披いてみると其の中に、閣下が到る処で折花攀柳の艶色を流されるが、閣下の如き高名の人がそうした手本を示されては我等苦心の効果が甚だ減殺されるから気を付けて貰いたい」という事が書いてあった。それで我輩も金沢では神妙にしていた。」と話した。それを北条に確認したら、「学校の門内に入ることを御断りしようかとも思った」という。北条は謡曲と将棋には目がなかったが、相手が気に入らないと何も話さなかったという気骨ある偉大な教育者であった。観光名所にはあまり紹介されてないが、金沢神社境内にはその頌徳碑があるので見学をお勧めしたい。

施設長 吉本 谷博

老健ホームいしかわの強みはリハビリにあります

数多くある高齢者施設の中で、老健施設に求められているものは何でしょうか。

老健ホームいしかわでは理学療法士や作業療法士といった、リハビリ専門職員が中心となって、入所者個々の状態に合わせたリハビリプランに沿って訓練を実施しております。

今の暮らしがより良いものになるよう、一生懸命リハビリに励む入所者様の姿が見られます。

今回はその一部をご紹介します。



①



②



③



④

- ①車いすへ、ゆっくり安全に座れるように
- ②今ある力を存分に活かしたリハビリを行います
- ③歩行器の練習、前屈みにならない様に気をつけます
- ④エルゴメーターで下半身を鍛えます



⑤



⑥



⑦



⑧

- ⑤滑車は、腕を上げる練習にもなります
- ⑥支えながらも歩く感触を忘れないように
- ⑦辛い杖練習も職員に励まされ笑顔で乗り切ります
- ⑧職員に合わせて大きく手を挙げます



⑨



⑩



⑪



⑫



⑮



⑯

- ⑮姿勢良く、大股で歩くよう気をつけています
- ⑯職員に見守られて、階段を使つての昇り降り

- ⑨上体を起こし風船を上手に打ち返します
- ⑩風船を使うと自然と腕が挙げります
- ⑪パズルも頭の体操に効果的です
- ⑫指先の運動として色塗りも取り入れます

たくさんの笑顔をありがとうございます

老健ホームいしかわでは、入所者様に楽しんでいただけるよう、ボランティアの方々をお招きして、毎月「歌」「舞踊」「演奏」などを披露していただいております。



平成28年も多くのボランティアの方々にお越しいただきました。
 ひまわり会／小浦一枝／福島里美／フラダンス虹／旭日公民館婦人部／照洲会／ひめ桜
 MOA 森本 NW／大場瀧乃太鼓／西条康夫（順不同・敬称略）
 いつも心温まる触れ合いを、ありがとうございます。
 ご協力いただいたすべての皆様・団体様に、心より感謝申し上げます。

地域に根ざした施設を目指して

老健ホームいしかわを身近に感じていただきたく、去年は地域の皆様を対象とした一日喫茶を開催しました。入所者様にお出ししているおやつを試食会や健康相談などで多くの方々に来所していただきました。また、北鳴中学校の生徒の皆様には入所者様との交流会に先立って、看護師から「入所者様とのコミュニケーション」についてお話させていただきました。今後一層、地域の皆様のお役に立つ活動に取り組みたいです。



ハロウィンをイメージしたおやつ



地域の皆様に味わっていただきました



中学生・入所者混同による風船バレー



初めての試み、参考になったでしょうか？



事故防止委員会の紹介

介護職員 國田 真実

事故防止委員会は、老健ホームいしかわに10ある委員会の1つです。多職種8名のメンバーで構成され、入所者様に安全・安楽な療養生活を送っていただくことを目標に活動しています。

福祉現場では、転倒・転落など様々な問題が発生します。

老健ホームいしかわでは、介護事故が起こる前に職員が危ないと感じた「気付き」を記載する「インシデントレポート」や、介護事故の原因を分析して新たな対策を記載する「アクシデントレポート」を、積極的に活用しています。レポートの情報を職員全体で共有し、介護事故の防止に努めています。

事故防止委員会で数年かけてレポートの様式や活用方法を検討し改善した結果、インシデントレポートの提出が増え、レポート提出後当日もしくは翌日のミーティングで話し合う環境が整い、より迅速な情報の共有が可能になりました。

他には上記のレポートを定期的にデータ集計し、事故の種類や内容を周知することで職員に注意を促しています。施設内研修会でも職員一人ひとりが危険予知能力を高めることを目指した「危険予知トレーニング」を実施しています。今後も入所者様の安全が確保できるように尽力していきます。



「危険予知トレーニングとは？」

一枚の絵をもとに、そこに潜む危険性を予測し、事故を未然に防ぐ力を養います。経験・体験不足を補うイメージトレーニングとしても有効です。

介護相談員ってどんな人？

介護相談員とは介護保険制度の仕組み・高齢者の心身の特性・コミュニケーション技法など一定水準の養成研修を受け、市町村が「ふさわしい人格と熱意を持っている」と認めた人と規定されています。

金沢市では平成12年から派遣事業を開始しており、入所者様と事業所との橋渡し役として活動しています。

ここにご紹介する小浦一枝様は、平成17年より老健ホームいしかわに介護相談員として月2回定期的に訪問され、その日を楽しみにしている入所者様も多くおられます。小浦様にお話しすることで入所者様本人が安心され、精神面の安定につながっているようです。介護相談員は施設職員ではないという立場であり、入所者様にとっては施設職員には言いづらいことでも、介護相談員には話せることも多いのではないかと思います。また去年は、小浦様とそのお仲間の皆様方による「歌と踊りの会」も開催していただきました。日頃とは異なる装いでのご登場が大変な盛り上がりが見られました。

小浦様の活動は老健ホームいしかわにとって非常に重要であります。第三者的視点からのご意見を教訓に、老健ホームいしかわの更なるサービスの質の向上に努めたいと思っております。



祝 100 歳!

平成29年1月に100歳を迎えた入所者様が、石川県より表彰されました。誕生日にはささやかですがお祝いを致しました。これからもお元気にお過ごし下さい。



編集
後記

最後まで「きらめき」をご覧ください、ありがとうございます。私たち職員のテーマは「笑顔で暮らす、いきがいのある日常生活」です。

入所者様がいつも笑顔で暮らせますように、そしていきがいを感じ、快適に生活していただける環境作りを心がけています。北条時敬の教え子で石川の偉人、西田幾多郎氏は『人が環境をつくり、環境が人をつくる』という言葉を残しています。快適な生活環境をつくる事で、笑顔が生まれ、その笑顔に職員も癒され、そして心の支えとなる事で、私たちが人として成長させていただくことが出来るものと感じています。

皆様「きらめき」を通して、少しでも「笑顔」になっていただければ幸いに存じます。

これからも、皆様の笑顔が広がりますように一層精進していきたく思います。

(A・T)